



俳人。東京府神田猿樂町(現、東京都千代田区)出身。俳人・高浜虚子の長男として生まれる。「年尾」という名は正岡子規の命名である。小樽高等商業学校(現、小樽商科大学)卒業後、旭シルク株式会社に入社したが、昭和9(1934)年に退社して俳句の道に入り、兵庫県芦屋市に移った。俳句は、中学時代より虚子が運営していた「ホトトギス発行所」に出入りし、多くの俳人と交流していたことから自然に学び、13歳で俳誌『ホトトギス』に俳句を投稿していた。

退社後は、関西俳句界の中心的存在として活躍し、昭和13(1938)年、俳誌『俳諧』を創刊。俳句、俳文のほか、俳句を英語、ドイツ語、フランス語に訳したものを掲載するなど多彩な内容であった。

少年のころから父・虚子と共にたびたび松山を訪れていたが、虚子没後もほぼ毎年、募参りと俳句の指導のため来松した。また、子規顕彰全国俳句大会には主選者として参加するとともに、長く「愛媛俳壇」選者を務めた。

略歴

明治33(1900)年12月16日	東京府神田猿樂町に、俳人・高浜虚子の長男として生まれる。
大正13(1924)年	小樽高等商業学校卒業
大正15(1926)年	旭シルク株式会社入社
昭和9(1934)年	退社して俳句の道に入る。
昭和13(1938)年	俳誌『俳諧』を創刊し主宰となる。
昭和19(1944)年	『俳諧』が『ホトトギス』に合併する。
昭和22(1947)年	合資会社ホトトギス社の代表社員となる。
昭和26(1951)年	虚子に代わって『ホトトギス』の雑詠選を担当
昭和34(1959)年	朝日新聞社「朝日俳壇」選者となる。 愛媛新聞社「愛媛俳壇」選者となる。
昭和41(1966)年	子規顕彰全国俳句大会に主選者として臨席(昭和54年まで)
昭和52(1977)年	次女・汀子に『ホトトギス』の雑詠選を譲る。
昭和54(1979)年10月26日	78歳で永眠

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・山本健吉他『現代俳句集成 第12巻』河出書房新社 1982年
- ・『現代俳句の世界12』朝日新聞社 1985年
- ・愛媛県百科大事典編集委員室『愛媛県百科大事典』愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・稲畑汀子『高濱年尾の世界』梅里書房 1990年
- ・稲岡長編『高濱年尾全集』梅里書房 1995~1996年

〈主な収蔵資料〉…(P227, 140)

〈ゆかりのある場所〉…(P313, 199)